

各グループで ICT 端末を用いて、繰り返し聴くことで 曲のよさを見いだしながら、音楽を味わって聴く学習

第6学年

日本や世界の音楽に親しもう

こんな子どもたちの姿が生まれました！

- 資料や既習内容を手がかりに感じ取ったり、聴き取ったことを言葉や体の動き、絵や図、オノマトペで伝え合ったりして、音楽をより味わって聴くことができました。
- 気になった部分を繰り返し聴いたり、必要な資料を選んで調べたりすることで、曲の雰囲気を感じ取り、音楽がどのように形づくられているかを捉えて聴くことができました。

指導者用デジタル教科書の活用による効果

前時、鑑賞した世界の音楽の演奏場面を、大型提示装置に示して視聴し、音楽の特徴を聴き深める手立てを明らかにし、学習の見通しをもつ。

- ・演奏者の様子を見ながら模倣したり、ロズさんだりして、各国の音楽の特徴が多様であることよさや面白さに関心をもたせる。
- ・「自分の選んだ曲のよさを仲間に伝える」という、本時の学習の目的を明らかにし、課題を設定する。



教師の指導のポイント

- 児童の考えを「音楽を形づくっている要素」で整理するとともに、本題材の「児童の思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素」を確かめる。

ICT 端末の活用による効果

気になった部分を繰り返し聴き、曲の雰囲気を感じ取り、音楽がどのように形づくられているかを捉えたことについて伝え合う。



- C1:同じ金属の音にでも、たくさんの種類の音が聴こえるよ。
 C2:本当？もう一回聴きたい。 ~ 繰り返し、聴く ~
 C3:重なり方から、リズムパートのような決まったリズムがある感じがする。
 C4:確かに。少し重くて大きな音が定期的に聴こえて、その後にちょっとずつ曲の感じが変わっていくよね。
 C2:キンキンっていう音だけじゃなくて、いろんな音色が絡み合って、妖精の音楽みたいな不思議な感じがよく分かる。



*本実践では、選んだ曲が同じ仲間でグループを結成。1台は音源再生専用、1台は鑑賞曲に関する資料の閲覧専用として ICT 端末を用いて鑑賞をした。

- ・ICT 端末で鑑賞する際、画面下に音楽の流れや音の波形が現れる。視覚的に曲全体を捉え、聴きたい部分にカーソルを動かして聴いたりしながら聴き深める。
- ・手書きでホワイトボードに書き込み、音楽を聴いて気付いたことや感じ取ったことなど、様々な意見を共有できるようにする。
- ・視点をもって再度音楽を聴くことにより、聴き取ったことと感じ取ったことを関連付け、音楽をより味わって聴くことができるようにする。

教師の指導のポイント

- 音や音楽を通して、児童が感じたことを言葉や体の動き、絵や図、オノマトペで伝え合うなどの言語活動を充実させる。音楽的な理由と関わらせながら仲間と対話を重ねることを大切にする。
- 鑑賞の学習の学び方が定着してきたら、実態に応じ、ICT 端末での学習へと発展させていくことも考える。

ホワイトボードに気付いたことを書き込み、整理して画像で保存をする。

- ・グループで追求して書き込んだホワイトボードの記述を撮影し、協働学習支援ツールに提出して共有することで、学びの足跡を蓄積していく。



教師の指導のポイント

- 学習内容に応じて、プリントやホワイトボード等への手書き、ICT 端末への入力、静止画像の保存、動画の視聴といった学習活動を使い分け、より効果的な学習活動を位置付ける。

